

# 授業科目 小児看護学演習

【担当教員名】 松井 由美子、坪川 麻樹子、中村 郷子	対象学年	3	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎
【概要・一般目標：G10】 子どもとその家族の日常生活援助や治療・検査・処置に伴う援助を実施するために必要な知識・技術・態度を修得する。子どもの成長発達上の特性をふまえて、具体的な実践方法を学んでいく。演習においては、子どもの権利を尊重した接し方についても学習する。				
【学習目標・行動目標：SBO】				
<ol style="list-style-type: none"> <li>子どもとその家族の援助の方法について特徴と留意点をのべられる。</li> <li>子どもにとっての環境の重要性を認識できる。</li> <li>子どものフィジカルアセスメントの方法について述べられる。</li> <li>子どものフィジカルアセスメントをモデル人形を使った演習で正確に実施できる。</li> <li>子どもの診療や日常生活の援助技術の方法を述べられる。</li> <li>子どもの診療や日常生活の援助技術をモデル人形を使った演習で安全に実施できる。</li> <li>子どもの応急処置と救急蘇生法を説明できる。</li> <li>子どもの応急処置と救急蘇生法を演習で体験できる。</li> <li>子どもの権利や尊厳を守る意義を理解し、意識付けることができる。</li> </ol>				
回数	授業計画・学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	授業ガイダンス・グループینگ			講義・GW
2	子どもの援助関係形成と環境調整		1、2	講義
3	子どものフィジカルアセスメント（身体計測・発達診断法）		3、4	講義・演習
4	子どものフィジカルアセスメント（バイタルサイン測定法）		3、4	講義・演習
5	診療に伴う援助技術（検査・処置・プリパレーション）		5、6	講義・演習・GW
6	診療に伴う援助技術（与薬・吸入・酸素療法）		1～9	講義・演習・GW
7	日常生活の援助技術（食事・清潔・衣生活）		5、6	講義・演習
8	日常生活の援助技術（排泄・移動・環境調整）		5、6	講義・演習
9	第1回演習「輸液療法・経口与薬・抱っこ授乳」		1～9	演習・ビデオ鑑賞（小児教員全員）
10	第1回演習「輸液療法・経口与薬・抱っこ授乳」		1～9	演習・ビデオ鑑賞（小児教員全員）
11	第2回演習「身体計測・外来診察法・バイタルサイン測定・全身清拭」		1～9	演習・ビデオ鑑賞（小児教員全員）
12	第2回演習「身体計測・外来診察法・バイタルサイン測定・全身清拭」		1～9	演習・ビデオ鑑賞（小児教員全員）
13	第3回演習「小児の救急蘇生法」		7～9	演習（外来講師・小児教員全員）
14	第3回演習「小児の応急処置」		7～9	演習・講義
15	まとめ・グループ発表		1～9	講義・発表
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>
教科書 (必ず購入する書籍)		小児看護技術	今野美紀、二宮啓子	南江堂
参考書		子どものフィジカルアセスメント 写真でわかる小児看護技術	小野田千枝子 山元恵子監修	金原出版 インターメディカ 株式会社メディカ出版
その他の資料				2009・2,600円＋税 2001・4,000円＋税 2006・2,500円＋税 2010
【評価方法】 演習（50%） グループ発表（30%） 出席・態度（20%）		【履修上の留意点】 小児看護学実習に必要な技術演習ですから欠席せず、積極的にグループワークや演習に参加し、実習までの課題を明確にしておきましょう。		